

(平成19年1月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>1月期の野菜の市況については、西南暖地を主力とする入荷で、全体的な暖冬傾向から、生育、入荷とも順調な入荷となった。とりわけ、重量野菜は大玉傾向、根菜類は太物が多い状況が続いた。結果的に、入荷量は前年同期を4%上回った。</p> <p>価格は、暖冬による一般消費、業務需要の停滞から期間を通じて安値基調で推移し、最終的には前年同期を16%下回った。</p> <p>品目別には、長大根、西洋にんじん、キャベツ、レタス、玉ねぎが入荷増の単価安で推移し、かぶらは、入荷減の単価高で推移した。はくさい、ほうれんそうは、入荷減ながら単価安となり、きゅうり、ピーマンは、入荷増ながら単価高であった。ナスは、入荷増にあつて、単価は前年並みで推移し、ばれいしょは、入荷減ながら単価は前年並みとなった。さらにトマトは、入荷量は前年並みで単価安となった。</p> <p>根菜類は、入荷が5%増加し、価格は26%安となった。 葉菜類は、入荷が8%増加し、価格は36%安となった。 果菜類は、入荷が8%増加し、価格は4%安となった。 土物類は、入荷が4%減少し、価格は4%安となった。</p>
果 実	<p>1月期の果実の市況については、主力品目のみかんの裏年に加え、メロンの栽培面積の減少、いちごが2番果への移行時期にあつたことなど、りんごを除いて全ての品目で入荷量が減少、若しくは不安定な状況となった。結果的に、入荷量は前年同期を14%下回った。</p> <p>価格は、入荷量の減少から終始高値基調で、結果として前年同期を26%上回った。</p> <p>品目的には、みかん、ふじりんご、アールスが入荷減の単価高で推移し、伊予柑が入荷増にあつて単価高で推移した。</p> <p>柑橘類は、入荷が21%減少し、価格は72%高となった。 りんごは、入荷が前年並みで、価格は15%高となった。 いちごは、入荷が13%減少し、価格は前年並みとなった。 メロンは、入荷が10%減少し、価格は34%高となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】 長大根</p>	<p>徳島，長崎，神奈川を主力とする入荷。各産地ともに天候に恵まれたことから生育は良好となった。結果的に入荷量は，前年同期を5%上回った。 価格は，入荷増に加え，暖冬により需要が弱かったことから，前年同期を48%下回った。</p>
<p>かぶら</p>	<p>京都を中心とする入荷。暖冬傾向から作柄もよく，前進出荷となったため，今月に入り入荷は減少した。結果的に，前年同期を24%下回った。 価格は，入荷減に加え，L・2Lサイズを中心に需要が多く，前年同期を117%上回った。</p>
<p>洋人参</p>	<p>長崎，鳥取，愛知を中心に下旬より鹿児島からの入荷。各産地ともに生育よく，太物中心に順調な入荷となった。結果として，前年同期を16%上回った。 価格は，入荷増によって，前年同期を31%下回った。</p>
<p>【葉菜類】 はくさい</p>	<p>岡山，兵庫，和歌山，愛知を中心に九州，茨城，群馬からの入荷。各産地ともに，暖冬傾向から生育もよく，大玉傾向で前進出荷となった。しかし，年内からの価格低迷により，産地廃棄や中央市場への出荷集中を避け，分散型の出荷となったため，結果として前年同期を3%下回った。 価格は，暖冬による需要の低迷が続き，入荷量は少ないものの結果として，前年同期を37%下回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>愛知，大阪，滋賀，兵庫，和歌山を中心とする入荷。各産地ともに天候に恵まれたことから生育は良好であり，暖冬傾向であったため，大玉傾向で前進出荷となった。結果として前年同期を16%上回った。 価格は，入荷量が多かったことに加えて，一般消費も動きが悪く，結果として，高値で推移した前年同期を65%下回った。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>京都を主力に徳島，茨城からの入荷。各産地ともに高温の影響から前進出荷で推移していたことから，今月に入って入荷量が減少してきた。結果として，入荷量は前年同期を3%下回った。 価格は，野菜全体の価格低迷の影響から安値となり，結果として前年同期を12%下回った。</p>

レタス	<p>兵庫，徳島，愛媛を中心に九州産地からの入荷。各産地ともに生育・作柄は良好で，中旬までは大玉傾向での順調な出荷となり，下旬からは小玉傾向の作柄のものが入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を21%上回った。</p> <p>価格は，入荷量が多かったことに加えて，他の野菜相場全体の価格の低迷が影響し，結果として，高値で推移した前年同期を42%下回った。</p>
<p>【果菜類】 きゅうり</p>	<p>宮崎，高知を中心とする入荷。各産地ともに11月下旬の曇天・日照不足の影響から回復しつつあり，比較的安定した入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を3%上回った。</p> <p>価格は，年末からの品薄感が残ったことから，前年同期を3%上回った。</p>
なす	<p>徳島，高知，岡山を中心とする入荷。各産地とも天候に恵まれ，生育も良好で順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を21%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら，太物を中心に漬物業務関連からの引き合いが強く，結果として，前年並みとなった。</p>
トマト	<p>熊本，福岡を中心とする入荷。各産地とも天候に恵まれ，生育も良好で昨年末に大幅な前進出荷となったことから，年明けは若干減少傾向となったが，結果として，入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，年末からの量販店在庫が多く，中旬まで価格低下となった。結果的に前年同期を10%下回った。</p>
ピーマン	<p>宮崎，高知を中心とする入荷。宮崎産は，日照不足の影響から入荷量が減少したが，他の産地も含め中旬までの順調な入荷によって結果として，入荷量は前年同期を13%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら前年同期を21%上回った。</p>
<p>【土物類】 ばれいしょ (メイク含む)</p>	<p>北海道，長崎，鹿児島を中心とする入荷。北海道産は生育不良から小玉傾向であり，九州産は順調な入荷となったが，結果的に入荷量は前年同期を10%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら小玉傾向でやや弱かったが，結果として前年並みとなった。</p>
たまねぎ	<p>北海道を中心に兵庫からの入荷。北海道は，生育も良好で順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を3%上回った。</p> <p>価格は，加工業務用の引き合いが強まり，また，暖冬による野菜全般の安値基調から，結果として，前年同期を9%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
普通みかん （早生含む）	<p>和歌山を中心に福岡からの入荷。各産地ともに裏年にあたることと12月の雨によって腐敗果が発生したため、入荷量は前年同期を27%下回った。</p> <p>価格は、入荷量が少ない中で、前年同期を104%上回った。</p>
伊予柑	<p>愛媛を中心とする入荷。暖冬傾向から前進出荷となり、入荷量は、前年同期を5%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ながら競合品目の柑橘類の入荷量が少なく、高値で推移し、前年同期を16%上回った。</p>
ふじ （サン含む）	<p>青森、岩手、秋田を中心とする入荷。各産地ともに在庫量はほぼ前年並みであったが、小玉傾向から入荷量は前年同期を3%下回った。</p> <p>価格は、入荷減により前年同期を10%上回った。</p>
いちご	<p>佐賀、熊本、福岡、長崎、大分、愛媛を中心とする入荷。今月は1番果から2番果への移行期となったため、各産地ともに入荷量は減少し、結果的に、前年同期を13%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながら価格は伸びず前年並みとなった。</p>
アールスメロン	<p>静岡を中心に高知、宮崎からの入荷。各産地ともに作付面積が減少している中で、入荷量は前年同期を21%下回った。</p> <p>価格は、入荷減に加え、他の雑メロンやスイカ等の代替商材の入荷も少なかったため、前年同期を50%上回った。</p>